

交通安全スキル

2019.6.30 北陸定例会

藤坂龍司

A. 幼児のうちから教えること

1. 車の危険を教える

まず「動いている車はこわい（ぶつかるどけがをする）」ということをお教えなければならない。

しかし車をぶつけるわけにはいかない。そこで、

- ・子どもの近くに車を接近させ、クラクションを思い切り鳴らす。

- ・「大きな、動くものは、当たったら痛い」ということを教える。

例えば手押し車をわざと子どもに当てる。

- ・「車道に飛び出したら痛い目に合う」ということを教える。

パパが自転車を持って隠れておき、子どもが車道に出ようとしたときに自転車をぶつける。

2. 「飛び出さない」「ストップ」の指示に従う

まず家の中で練習。歩かせて、「ストップ」で止まる。最初はプロンプト。徐々にフェーディング。

続いて家の外で。最終的に歩道や公共駐車場などへ。「ストップ」の指示に従えなかったら、やや乱暴に手を引いて、元の位置からもう一度やり直させる。

3. 車道の前で止まる。

「ストップ」で止まれるようになったら、これを利用して、歩道を、あなたの前を歩かせ、歩道が途切れて車道を渡らなければいけないところで、「ストップ」と声をかける。

最初は止まらないかもしれないので、すぐ後ろについていて、止まらなかったらすぐに首根っこを掴まえる。プロンプトなしで止まったら、ほめる。

こうして信号や横断歩道のあるなしに関わらず、「車道に来たら勝手に渡らずに、大人が来るのを待つ」という行動を形成しよう。

4. 車を避ける

歩道のない車道を歩かせているとき、やはりあなたの前を歩かせ、車が来た時に「車！」あるいは「避けて」と指示を出して、歩道の端に避ける行動を教えよう。

①指示して避けさせる

比較的車の往来の少ない、見通しのよい車道を選ぶ。子どもにわざと中央近くを歩かせておき、車が前方から近づいてきたら、「車！」という。と同時に、右か左、どちらか近い方に避けさせる。車が通過するまでは動かないことも教える。

車が後ろから来た時も、「車！」で避けさせる。

②車が近づいてきたら避ける

次に車が近づいてきたら、自分で避ける、ということを教える。やはり前を歩かせ、車が近づいてきた時（前方からの車）、あるいは車の音が近づいてきた時（後方からの車）に、最初は無言で身体プロンプト（背後から肩をどちらかの方向に押す）で、車道の端に避けさせる。徐々に身体プロンプトをフェーディングしていく。自発的に避けることができたなら、すごくほめてあげよう。

B. 小学校に入ってから教えること

1. 信号のある横断歩道を渡る

①信号の理解

信号の理解自体は、小学校に入る前から教えておこう。

歩行者用信号の赤と青の写真を拡大するか、絵を描く。「赤はストップ」「青（みどり）は進め」と教える。（わが家では青信号は「みどり」と教えた）

子どもに緑信号を見せて、遠くからこちらに向けて歩かせる。途中まで来たら、赤信号に切り替えて、同時に「ストップ」という。止まったらほめる。しばらく待たせて、青信号に切り替え、「いいよ」という。こちらまで来たら、強化する。徐々にことばをなくして、信号だけにする。

②実際の信号を読む

歩行者用信号のある横断歩道で赤になっているときに、歩道の端で一緒に待つ。信号に注意を促して、「信号、何色？」と聞く。「赤」と言えたら、ほめる。「見ててよ」と言って、青になった瞬間に「あっ、どうなった？」と聞く。「あお（みどり）になった」と言えたら、思い切りほめてあげる。と同時に「どうするの？」と聞き、「あるく」あるいは「進め」などと言わせて、歩きださせる。言えたこと、歩けたことをほめてあげる。

徐々にこちらが注意喚起しなくても、青になったら、「青になった」と言えるようにする。

しかし青になったからと言って、すぐに歩きださせるのは危ない。時折、突っ込んでくる車があるから。だから当分の間、「青になっても大人が渡り出すまで待つて渡る」という行動を教えておいた方がよいだろう。あるいは「青になった」と子どもが言ったら、「右見て」と言って、車が来てないのを確かめさせてから、渡らせる。

2. 信号のない車道を渡る

これも小学校入学以降に教えよう。ただし100%大丈夫、と判断できるまでは、実際には一人きりでは渡らせない方がよい。誰かがついていべきである。

信号のないところでは、左右を確認して、車が来てないことを確かめてから、渡らせる。しかし「右見て、左見て」と言っても、いたずらに首を振るだけで、車を見ていない子が多い。

そこで代わりに「車見て」と指示を出す。車がこちらに向かっていたら、「車どう？」と聞いて、「来てる」と言わせる。通り過ぎたら、「行っちゃった」と言わせる。車がいなくなったら、「車どう？」と聞いて、「ない」と言わせる。「じゃあ、渡るよ」と言って、渡らせる。見通しのよい道路を選ぶこと。

徐々に、「車どう？」と聞いて、右だけでなく左も見て、「ない」と言えるようにする。

小学校高学年になったら、「車がないと思ったら、自分で渡ってごらん」と課題を出す。判断が間違っていたら、止める。安全な時に自分で車がないことを確認して渡れたら、すごくほめてあげよう。